



JASWHS 公益社団法人 日本医療社会福祉協会
Japanese Association of Social Workers in Health Services

平成 30 年 11 月 2 日 第 8 巻 (第 2 号)

発行：東京都新宿区住吉町 8-20 四谷チンゴビル 2F

災害支援チーム TEL (03)3351-5038

FAX (03)5366-1058

Mail: dsstsw@jaswhs.or.jp

もくじ

1. 石巻事務所 現在の活動状況
2. アジアのソーシャルワーカーとの国際交流ワークショップ報告
3. アジアのソーシャルワーカーとの国際交流ワークショップに参加して
4. 石巻現地職員 福島県現地視察研修報告
5. 災害支援チームからお知らせ
6. 災害支援ニュース発行のお知らせ
7. あとがき



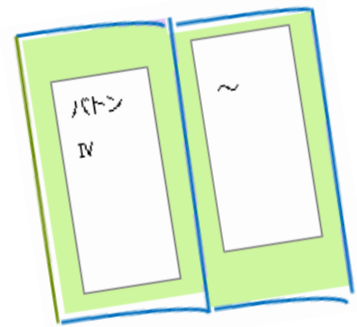
～須川高原温泉の夕暮れ～

発売のお知らせ

「東日本大震災 医療ソーシャルワーカーの支援のバトンⅣ」 が発売されています！！

詳細は、協会ホームページ

及び 【1. 書籍販売】をご覧ください。



《 支援活動地域別 仮設住宅報告 》

(宮城県保健福祉部震災援護室 仮設入居状況より抜粋)

石巻市応急仮設住宅現況報告

応急仮設住宅（プレハブ住宅）入居状況（H30年10月1日）

入居戸数	199戸
入居人数	400人

応急仮設住宅（民間賃貸借上住宅）入居状況（H30年9月31日）

入居戸数	131戸
入居人数	324人

1. 石巻事務所 現在の活動状況

石巻現地

菊田 駿



最低気温が一桁台になってきて、東北の長い冬の幕開けを感じている。冬が苦手な私にとっては何とかいつも以上に気持ちを入れないと乗り越えられない時期。そして、プロ野球シーズンもクライマックスを迎えてしまい、どこか寂しい気持ちになってしまう時期だ。



1. 『仮設住宅等被災者自立生活支援業務』

平成 27 年度より、石巻市生活再建支援課から委託を受けている事業。

その中で自立困難世帯(再建先等の道筋を立てられない障害者、高齢者等で構成されている世帯)と自立未定世帯(身寄りがないない単身高齢者、高齢者のみ世帯、自立意欲がない、仮設住宅に居られるまで居るという方等、結果的に自立の道筋が未定となっている世帯)に対し、再建先への早期移転に向けた情報提供や、相談、手続き等の支援、その他仮設住宅等における相談・生活支援を推進するため、相談支援や各種手続きを行ってきた。

委託から 3 年が経過し、状況が変化している。それは、自立困難世帯や未定世帯が仮設住宅から再建先に向けて完了してきている。現在、石巻事務所が抱える、自立困難世帯・未定世帯数は自立困難世帯が 14 件。自立未定世帯が 0 件となっている。(平成 30 年 10 月 18 日現在)

しかし、自立困難世帯・未定世帯の中で再建先である復興公営住宅等に行き、ケースとしても完了となるべき世帯が再建した直後や数か月を経過した後に再度、相談があり、MSW としても心配なケースが多数ある状況になっている。

2. 『再建先においての地域課題』

東日本大震災の防災集団移転団地である
石巻市二子団地町内会の住民顔合わせ会が

開かれ、行事や消防団組織などについて意見を
を交わしている。

交流行事として3町内会合同で盆踊りやバーベキューをしたいという提案があった一方、これまで各地域で行ってきた祭については移転前の住民中心に行うべきだとの意見もあった。消防団の立ち上げや、班長の任期などについても話し合った。



このように再建先となっている復興公営住宅等内での地域作りが話題になってきている。石巻事務所としても来年度以降の業務内容としても、どのような介入が出来るだろうか等いよいよ具体的に検討する時期となって来た。

3. 『今後への展望』

今後は個別ケースの対応はもちろんのこと、仮設住宅を出る移行支援から復興住宅やその地域の中の課題・問題等を、住民、支援員間で連携し取り組んでいくような支援に大きく変わっていくことが予測される。これから、“コミュニティ” というものへの理解をあらためて深め、コミュニティソーシャルワークを展開できるスキルを更に向上させてゆきたい。



2. アジアのソーシャルワーカーと国際交流ワークショップ 報告

石巻現地

福井 康江



「アジアのソーシャルワーカーとの国際交流ワークショップ」

〔日時〕2018年9月21日（金）～23日（日）

〔会場〕石巻市内、石巻市防災市防災センター

〔内容〕

9月21日（金）

石巻市内フィールドワーク〔大川小学校、遊学館、南浜つなぐ館、日和山等〕

9月22日（土）

1. 基調報告「石巻市における東日本大震災後の新しいコミュニティへの取り組み」

〔報告者〕佐藤 由美（石巻市復興政策部地域協働課課長）

2. 講義1 「災害支援とソーシャルワーク」

〔講師〕 笹岡 真弓（公益社団法人日本医療社会福祉協会、文京学院大学）

3. 講義2 「震災とこども～スクールソーシャルワーカーとしての実践から～」

〔講師〕 土屋 佳子（日本社会事業大学災害ソーシャルワークセンター客員准教授）

4. シンポジウム「新しいまちづくりにおけるソーシャルワーカーの役割」

〔シンポジスト〕

・高橋 了（公益社団法人日本社会福祉士会、石巻市北上地域包括支援センター）

・高橋 由美（石巻市健康推進課技術副参事兼技術課長補佐）

個別テーマ：東日本大震災からこれからの向けての地域保健活動

・福井 康江（公益社団法人日本医療社会福祉協会石巻現地）

個別テーマ：未来に向けて～過去・現在の活動を通じて～



5. 海外からの参加者の発表

[発表者]

Do Van Trai (ベトナム)

Umesh Shrestha (ネパール)

Amaresha Chandra Reddy (インド)

Thi Thi Thein (ミャンマー)

RANDUN MUDIYAMSELAGE, Hemama 1i Yashintha Rathnayake (スリランカ)

6. 懇親会

9月23日(日)

1. レクチャー 「日本のソーシャルワークの資格制度について」

[講師] 大橋 雅啓 (公益社団法人日本精神保健福祉士会 東日本国際大学教授)

2. グループワーク (①コミュニティ ②精神的ケア ③アジアの災害ソーシャルワーカー ④子どもの福祉と家族 の4グループに分かれて)

3. 全体フィードバック・まとめ

《 ワークショップに参加して 》

先月の21日から23日まで、日本ソーシャルワーカー連盟 (JFSW) 主催、石巻市共催による、ワークショップが開催され、石巻現地の職員も参加しました。

ワークショップは、1日目は、大川小学校、遊学館、メモリアル南浜つなぐ館、日和山等石巻市内のフィールドワークを行い、2日目は、基調報告と2つの講義、シンポジウム、海外からの参加者の発表、3日目はグループワークという内容で行われました。

大川小学校での、伝承の会の方の話の一言一言に聞き入る様子が印象に残り、短い時間ではありましたが、参加者の方から「[沢山のことを学び考えさせられた。](#)」と伺いました。

何よりも、海外からの7名を始めとする全国からの参加者の皆さんの関心の深さや積極的な姿に触れ、併せて「石巻に来てよかった。」との言葉を沢山いただき、出会えたことの喜びと再び仕事への活力をいただけた気がします。





☆ シンポジスト報告

シンポジストとして報告させて頂いた中で、“これからの支援活動”の部分について報告します。

シンポジウムテーマ：「新しいまちづくりにおけるソーシャルワーカーの役割」

個人テーマ：未来に向けて ～過去・現在の活動を通じて～

〔これからの支援活動〕

1. 生活再建後の暮らしへの支援

その人らしい生活、生き方にこだわる。コミュニティの課題、特徴を関係機関と共有しながら、生活を支える仕組み作りにかかわる。

2. これまでの被災地での支援活動を地域に引き継ぐ、根ざすための活動

MSW が地域にいるということ、どう生かすことができるのか。病院ではなく、**その人の生活の場の中に MSW がいること**で何ができるのかを明らかにし、地域生活の中での役割を探る。

3. 災害ソーシャルワークを行政の中で、当たり前の機能として定着するための活動

災害は全国各地で起きており、いつどこで、どのような災害が起きても想定内のものと認識しておかなければならず、石巻でのいままでの支援活動の評価を行い、**平時から災害を見据えたソーシャルワークの必要性を示してゆく。**



3. アジアのソーシャルワーカーと国際交流ワークショップに参加して

石巻現地

佐藤 なおみ

9月22日、23日の二日間、石巻市防災センターで“アジアのソーシャルワーカーとの国際交流ワークショップ”が行われました。1日目は基調報告と講義、シンポジウム、海外の参加者の発表が行われました。

私はシンポジウムの「新しいまちづくりにおけるソーシャルワーカーの役割」が印象に残りました。シンポジストの石巻市北上地域包括支援センター 高橋氏、石巻市健康推進課 高橋技術課長補佐、日本医療社会福祉協会石巻事務所 福井 MSW から、それぞれの立場での東日本大震災の発災からこれまでの支援経過、これからの支援活動について発表がありました。その中でも高橋氏の、震災後に外部支援者を受け入れる“受援”の話が強く心に残りました。震災後、石巻では地域の人材で支援しきれないくらいの圧倒的な数の対象者がいたこと、所属機関や連携先の機能的麻痺が起きていたこと、地域支援をしている支援者自身が被災者であったこと、そのような状況の中で、外部支援を受け入れていくことが、どれだけ難しかったかを知りました。また、短期間の外部支援者が手厚く支援することで、住民にその印象が強く残ってしまい、地域で精一杯支援しても、一部の住民から「何もしてくれない」と言われてしまうことがあったそうで、地域の支援者のその時の気持ちはどれだけ複雑だったろうと思いました。外部支援団体に所属しながらも、

地域住民である私にとってもいろいろ考えさせられる発表でした。地域住民も地域の支援者もこれからこの地で生きていくこと、外部支援者は支援に終わりが来ることを念頭に置いて活動していく必要があると感じました。



2日目のグループワークは各グループに、海外のソーシャルワーカーが入る形で、行われました。私は精神的ケアのグループに入り、災害が起きたあとの精神的ケアについて話し合いました。甚大な被害があった被災地の住民が持つ喪失感、気持ちの落ち込みがある人々に対し、ソーシャルワーカーが何をするべきか、また、災害後の精神的ケアをできるようになるための仕組みづくりについて意見が出ていました。アジアの参加者からの視点や考えはとても刺激になりました。



この研修はソーシャルワーカーという専門職の在り方を再確認する機会となりました。また、地元民の私としては、この研修を機会として、国内外の皆様がわざわざ石巻に足を運んでくれただけでも、ありがたい気持ちです。2 日間ありがとうございました。

次はぜひ観光で石巻に遊びに来てほしいと思います。



4. 石巻現地職員 福島県現地視察研修報告

石巻現地

清水 大地



福島県における東日本大震災の被害の状況—特に福島第一原子力発電事故における、県内の現状と今後の課題—を、現地の方の口演を通して学ぶことを目的に、福島県いわき市と浪江町の視察研修を事務所で企画し、行いました。

いわき市では、当協会副会長鈴木幸一氏より、東日本大震災で受けた市内の被害状況、発災直後からの鈴木氏の実践について、お話を伺ってきました。

いわき市内の人的被害、避難所数等の被害状況の詳細、また、発災直後は、情報共有や記録の残し方に苦戦していたことや、医療職と避難所を回ることで、医療と相談支援の両側面から支援できたことなどの実践内容を説明頂きました。

その中で、特に印象的であったのが、「少し先を見る力」を、私たちには必要だと、挙げられていたことです。この力が私たちに備えられていれば、災害時にも、個人だけではなく地域の「少し先を見る力」につながっていくのだと感じました。日頃から、「少し先を見る力」を私たちが持ち、対象者の方の生活をイメージし、考えていく力を身につけていくことの必要性を改めて感じました。

また、鈴木氏は、「日頃のソーシャルワーク実践、日常業務と何ら変わらない」と、災害支援を振り返り、まとめられてもいました。これは、私たちが、いかに日頃の業務を大切にし、万が一の状態を想定し備えていられるかで、災害時の実践につながっていくことなのだと感じました。

浪江町では、「一般社団法人まちづくりなみえ」の方から、浪江町の受けた被害状況と、今後の課題を伺ってきました。その後、被害を受けた地区を、実際に視察しました。

一時、住民がゼロになった地区を、2035 年までには 8000 人を目指しているとの計画内容を聞き、その言葉の重さを感じました。

「保育士不足から、収容人数の半数程度の園児しか通園できず、待機児童が発生している。」

「マンション型復興住宅という、これまでの生活様式とは全く違う生活の場を拠点としていくことを強られる住民の方々。」

「在る場所に戻れないという思いから、地元意識が持ちづらい環境となっている。」

「既存の力、住民の方々の力を復興の原動力にしていくべきなのか、外部団体の力を借り、復興に向け動き出すべきなのか。」等、お話の中には印象に残るワードも多くあり、東日本

大震災から 7 年以上が経過し、新たに出てきている地域の課題があることを感じました。

これまでメディアを通し、描いていた東日本大震災後の福島県のイメージではありましたが、福島第一原子力発電所をはじめ、被害を受けた地区に実際に行き、目を見て、[現地の方々のお話を聞く](#)ことで、より深く感じ考えることができたと振り返ります。

今回の研修を、今後につなげられるよう、意義のあるものとできるよう、振り返っていきたいと思います。

この度、ご協力を頂きました、『公益社団法人ときわ会』様と『一般社団法人まちづくりなみえ』様には、心より感謝申し上げます。



～請戸地区漁港～



～請戸地区漁港からの福島第一原子力発電所～

5. 災害支援チームからのお知らせ

【1. 書籍販売】

『東日本大震災 医療ソーシャルワーカーの支援のバトンⅠ』、
『東日本大震災 医療ソーシャルワーカーの支援のバトンⅡ』、
『東日本大震災 医療ソーシャルワーカーの支援のバトンⅢ』
『東日本大震災 医療ソーシャルワーカーの支援のバトンⅣ』の
販売を行っています！



発災から 2011 年9月30日までの石巻・仙台・大槌町・事務所・災害
対策本部の活動の記録を『バトンⅠ』に、2011 年 10 月から 2012 年 12 月までの災害対策本部、
石巻市での仮設住宅支援・在宅被災世帯支援・市民活動支援、現地 SW との協働の記録を『バトンⅡ』
に、2013 年 1 月から 2014 年 3 月までの災害支援チーム、石巻市での仮設住宅支援・在宅被災世
帯支援・市民活動支援、虐待防止センターでの支援・石巻市社会福祉協議会での支援、現地 SW との
協働の記録を『バトンⅢ』にまとめました。

そして新たに、この5月下旬に『バトンⅣ』を発行いたしました。

2014 年 4 月から 2016 年 3 月までの災害支援チーム、石巻市での復興公営住宅への入居支援・
仮設住宅被災者自立生活支援・グループワーク支援・市民活動支援の記録です。

尚、売り上げの全額を皆様からの寄付として、本活動の資金にあてさせていただきます。

※ご注文は注文用紙で承ります。(注文用紙はホームページからダウンロードできます)

バトンⅠ:URL: http://www.jaswhs.or.jp/data/publishing_detail.php?@DB_ID@=45

バトンⅡ:URL: http://www.jaswhs.or.jp/data/publishing_detail.php?@DB_ID@=50

バトンⅢ:URL: http://www.jaswhs.or.jp/data/publishing_detail.php?@DB_ID@=54

バトンⅣ:URL: http://www.jaswhs.or.jp/data/publishing_detail.php?@DB_ID@=59

【2. facebook】



facebook でも情報をお伝えしています。現地や災害対策本部の日々の様子をお伝えしています。応援よろしく願いいたします。

URL：<http://ja-jp.facebook.com/pages/公社日本医療社会福祉協会-災害対策本部/156327867812970>

【3.YouTube】

現地での災害支援活動の様子を前事務所担当の一原さんが VTR にまとめて下さいました。YouTube にアップしましたので、是非ご覧ください。「医療ソーシャルワーカー災害支援」で検索すると見つかります。」



URL：<http://www.youtube.com/watch?v=vn34I9h5rJ4&feature=youtu.be>

6. 災害支援ニュース発行のお知らせ

.....

次回発行予定 H31 年 1 月

(原則として 3 ヶ月に 1 回の発行予定)



7. あとがき

.....

石巻現地職員から

清水 大地

石巻市では、紅葉が色づきだし、とんぼたちも気持ちよさそうに空を飛んでいます。菊田さんの報告にあったように、石巻は、気温がぐっと下がってきています。出勤してから、朝選んだ服を失敗したなあと思うことが何度かある、この頃です。

今回の災害ニュースは、石巻現地職員で編集を担当しました。発行にあたり振り返りましたが、9月・10月と研修が多い月になりました。県外に出て研修に参加した職員もいれば、発表者となったり、運営のサポートに回ったりと、ハードなスケジュールを皆で乗り越えた月になったと思います。週が始まる月曜日には、「面白かった。」「こうだった。」「ああだった。」と、それぞれが参加した研修を振り返る会話が飛び交っていました。研修での学びを、今後に大いに活かせるようにしていきたいと思っています。

そして、やっぱり秋といえば「食」ですね。福井さんは、9月の末にあった女川のサンマ祭りに参加されたり、佐藤さんは、事務所でイチジクの甘露煮ふるまってくれたり、それぞれが食欲の秋を満喫しています。そんな中、ジムに通って菊田さんはスポーツの秋を満喫。私も、食欲の秋に負けないように、体型維持を頑張ろうと思います！

今年度も半期が過ぎました。私が入職してから5カ月、時間が経つ速さを感じています。これからも精進していけるよう頑張ろうと思います。

東日本大震災 MSW 災害支援ニュース
平成 30 年 11 月 2 日 第 8 巻（第 2 号）
作成 日本医療社会福祉協会
災害支援チーム事務局